



(120)

小学校 高学年向け 年組

虫捕りを通して 「自分」を考える

じぶんはしぜんできてい
る。「バカの壁」などの著
書で知られる解剖学者養老
孟司さんの初の絵本『じぶ
んのはなし』が刊行された。
養老さんが子どもたちと一
緒に虫捕りに行く話を通して、
自分たちの命について考える
絵本だ。

物語は養老さんと子どもたち



表紙
「『じぶん』のはなし」の

養老孟司さんが初の絵本

ちが一緒に山に行くところか
ら始まる。養老さんは虫捕り
の面白さを子どもたちに伝え
ながら、好きなことに理由は
要らず、好きなことがあるだ
けで幸せになれる、と教えて
いく。

養老さんの話は虫捕りか
ら、命の成長の話につながっ
ていく。「たべたものは、ど
れもじぶんになっている」「じ
ぶんがたべたものは、たんぼ
やはたけ、やまやうみなどで
とれたもの」と説明し、自分
は自然でできていると伝えて
締めくくる。

イラストレーターの横山
寛多さんのみずみずしいイラ
ストで、養老さんの考えが子
どもにも伝わる絵本になった。
養老さんは東京大名誉教授
や北里大教授などを歴任。世界
各地へ採集に出かけ、標本を
作って研究している。

講談社刊、1760円。

設 問

【1】養老孟司さんのプロフィールをまとめましょう。

- ①職業 ()
- ②主な著書 ()
- ③初めて刊行した絵本 ()

【2】養老さんは絵本の中で、虫捕りの面白さを子どもたちに伝えながら、「好きなこと」についてどのように教えていますか。

【3】養老さんは、「自分は自然でできている」ことの説明として、どのように述べていますか。

【4】あなたが夏休みに読んだ本について、次の点についてまとめましょう。

- ①本の名前
- ②本を書いた人
- ③その本からあなたが受け取ったメッセージ